



2011年2月8日掲載

公的医療の財源問題の解決：効果的な予算改革

ベネディクト・クレメンツ

医療制度改革は、難しい問題です。手頃な費用で医療サービスを利用できることが何よりも重要ですが、医療関連支出は、世界中で国庫の莫大な圧力となっており、その状況はますます悪化するばかりです。それでは、この問題はどのように解決できるのでしょうか？ どのようにすれば各国政府は、予算を破綻させずに国民に対する医療を巡る公約を守ることができるのでしょうか？

IMFの財政局が先日発表した報告書は、先進国および新興市場国 50 カ国の公的医療費の予測額を提示するとともに改革案を提起しており、こうした選択を行う上での一助となるのではないかと考えています。

先進国

それでは、基本的なことから始めましょう。先進国では、過去 40 年間の政府予算の伸びの約半分を、医療関連支出が占めてきました。何も対策を講じないと、これらコストは急増を続けることとなります。先進国では、公的医療支出は今後 20 年間で、対 GDP 比で 3 パーセントポイント上昇する見通しです。高齢化も支出の伸びの要因の一つですが、さらに重要な要因として、医療技術が進歩し、より高度かつ高額な技術が利用できるようになったことが挙げられます。これは簡単に手が届く金額ではありません。

支出のコントロールには改革が必要ですが、こうした改革は、基本的な医療サービスを必要とする、貧困層をはじめとした人々の同サービスへのアクセスを保護するなど、公正なものでなければなりません。厳しい状況のように見えますが、選択肢がいくつかあります。これまでの経験により、改革により支出の伸びを効率的かつ公正な方法で、抑えることができることがわかっています。

トップダウン型の予算管理と効率性の改善を図るボトムアップ型の改革を組み合わせる改革戦略が、最も成果が期待できることが判明しました。

- 医療費の支出総額の上限設定、および当局による監視体制の強化が、支出引き締め強力なインセンティブとなる。イタリア、日本、スウェーデンなど、これまで公的支出の伸びが最低水準となっている国々は、予算上限をより主軸としている。

この IMF ダイレクトは <http://blog-imfdirect.imf.org/2011/02/08/healing-public-health-care/>

IMF ダイレクトブログホームページ： <http://blog-imfdirect.imf.org/>

- ボトムアップ型改革は、効率性を高めることでコスト管理に役立つ。これにより、一定のリソースで、より多くの優れたサービスを患者に提供することが可能となる。以下に例をいくつか挙げる。
 - 市場原理の強化。患者の保険業者の選択肢を広げ、保険業者間・ヘルスケアプロバイダー間、それぞれの競争を促進し、一段と軸足を民間部門に置く（ドイツ、日本など）。
 - 医師や病院への支払い方法の変化。医療サービス提供後のヘルスケアプロバイダーへの報酬支払い制度（出来高払い診療報酬）から、より進んだ管理・契約システムに変更する。無駄を最小限に抑え、サービスの向上を図るインセンティブがビルトインされている制度もこれに含まれる（ドイツ、イタリアなど）。
 - 民間保険の活用度を高めることで、公的医療費の伸びを抑える（オーストラリア、カナダ、フランスなど）。

公正性についても忘れてはなりません。コスト抑制の改革を行なうにあたり、貧困層への潜在的なマイナスの影響は最低限に抑えるべきです。大半の先進国は、基本的な医療サービスを誰もが利用できるようになっており、医療改革の実施においては、このセーフティ・ネットを重視すべきです。

こうした改革を公約してはいますが、一部の国では、公的医療費の対 GDP 比の上昇の抑制には、依然として十分ではない可能性を認識することが重要です。そのような場合、財政調整を支えるべく、他の分野の支出の一層の削減や、歳入の更なる増加が必要になるかもしれません。

新興国

新興国の課題は、先進国と若干異なります。新興国の公的医療関連支出の伸びは、今後 20 年間で対 GDP 比 1 パーセントポイント程度にとどまる見込みです。これらの国々では、平均寿命や乳幼児死亡率など健康指標の水準が明らかに低いことから、健康セーフティ・ネットの改善が主な課題です。予防治療やプライマリーケアをこれまで以上に重視すべきですが、そのためには、ヘルスケアプロバイダーの金銭的インセンティブの変更が必要となります。また、同様に伝染病対策や、貧困の農村地域での医療の改善も重視すべきです。

多くの新興国の主な課題は、基礎的な医療の拡大です。こうした国々、特にアジアとラテンアメリカでは、支出を拡大する余地があります。手頃な費用でできるだけ多くの人々が診療を受けられるようにするには、公的医療システムはまず、最も基本的な医療サービスの提供を重視すべきです。タイやチリは、低い財政コストで基本的な医療サービスの保険対象範囲の拡大に成功し、他の諸国の貴重な手本となっています。

一方で、医療が既に行き渡っている国では、今後公的支出がコントロール不能にならないよう、支出の一層の効率化が課題となっています。これは、予算が圧力下にある東欧圏に特に当てはまります。

明確な差はあるものの、先進国と新興国は、共通してごく基本的な事柄を共有しています。どの国も公的医療費については「支出した金額以上の効果」を得ることが必要です。



ベネディクト・クレメンツ氏： IMF 財政局歳出政策課長。前職では、西半球局内の課長としてブラジル及びコロンビア担当のカントリーチームを指揮した。財政及びマクロ経済の問題に関して精力的に発表を行っている。